

業務用油だき可搬形ヒータ熱風式直火形

ホットガン HOTGUN DHI

取扱説明書

ホットガン ディーエイチツー



お使いになる前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで正しくお使いください。
取扱説明書は、お使いになる方がいつでも見ることができるところに大切に
保管してください。

もくじ

まえがき	2
1. 特に注意していただきたいこと	2
2. 各部の名前	5
3. 使用方法	6
4. 運転操作方法	9
5. 点検・手入れ・保管	10
6. 故障・異常時の処置方法	12
7. 仕様	12
8. 安全ラベルの一覧	13
9. 別売部品について	14
10. アフターサービス	15

＊ ＊ ま え が き ＊ ＊

◆この取扱説明書には、この製品を安全に、正しくお使いいただくため、必ずお守りいただきたい注意事項が表示されています。

注意事項は「危険」、「警告」、「注意」に区分されています。
表示内容をよくご理解いただき本文をお読みください。



危険

この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、又は火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を表示しています。



警告

この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が死亡、重傷を負う危険、又は火災の可能性が想定される内容を表示しています。



注意

この表示を無視して、誤った「取扱い」をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を表示しています。

△注意の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつくおそれがあります。
いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。

1. 特に注意していただきたいこと



危険

1. ガソリン厳禁

ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

2. 可燃性ガス雰囲気での使用厳禁（防爆構造ではありません）

可燃性ガスが充満している雰囲気では絶対に使用しないでください。
火災、爆発のおそれがあります。

3. 換気必要

換気を十分に行えない場所では使用しないでください。換気せずに使用し続けしないでください。
酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生し、中毒になるおそれがあります。
使用中は必ず換気をして新鮮な空気を補給してください。



警告

1. 一般家庭での使用禁止

この機械は物の加温、乾燥を目的とした業務用ヒータです。家庭用として使わないでください。
火力が強いため、密閉した場所で使用すると火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

2. スプレー缶厳禁

スプレー缶など密閉容器を加熱したり、熱の当たるところに置かないでください。
熱でスプレー缶などの圧力が上がり、爆発し、ケガをすることがあります。

3. 可燃性粉じん厳禁

可燃性粉じん（木くず、紙くず、繊維くずなど）が発生する場所では使用しないでください。
ヒータ内に吸い込まれると加熱され火の粉になって吹き出されるので火災の原因になります。

4. 高温部に注意

燃焼中や、消火後約30分間は、高温部・吐出口周辺に手など触れないようにしてください。
やけどします。

5. 閉塞危険

空気取入口や吐出口をふさがないでください。ふさぐと、異常燃焼や、火災の原因になります。

6. 改造使用の禁止

改造して使用しないでください。故障・火災などの原因になります。

7. 感電注意

雨水、雪などのかかる場所や湿度の高いところでは使用しないでください。濡れた手で操作しないでください。
日常の点検、手入れ、別売部品の取付けの際は必ず消火し、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電・故障するおそれがあります。

8. 空気取入口変形・破損時の使用禁止

空気取入口の保護網が変形、破損した場合は使用を中止し販売店に連絡してください。送風ファンに身体や物が吸い込まれたり、吸い込まれたものが飛び出し、ケガの原因になります。

注意

1. 可燃物からの距離確保

可燃物は、吐出口の前方から2.5m以上、左右側方、後方および上方から2m以上離してください。火災の原因になります。

2. 遮へい物不可

吐出口前方1m以内には遮へい物を置かないでください。異常燃焼や火災の原因になります。

3. 標高の高いところでの使用禁止

標高1000m以上の場所で使用する場合は調整が必要です。調整は販売店に相談してください。そのまま使用すると、異常燃焼や火災の原因になります。

4. 使用時の周囲温度に注意

ヒータを使用するときは、 -20°C ～ 40°C の周囲温度でお使いください。特に周囲温度が 40°C 以上になりますとヒータが過熱され、火災の原因になります。

5. ヒータ使用場所の制限

災害・傷害等を未然に防ぐために、次のような場所では使用しないでください。

- ・使用床面が振動する場所
- ・使用床面が傾斜している場所（水平でないところ）
- ・階段、非常口（避難口）、部屋の出入口等
- ・周囲に不安定な積荷のある場所
- ・風の強い場所や湿気の多い場所、ほこり・金属粉の浮遊している場所
- ・その他、人の移動に障害となる場所等

※ 本製品は「裸火」に該当します。

不特定多数の人が出入りする場所で使用するときは、消防署の許可を取ってお使いください。

- ・百貨店の売り場、顧客の出入りする場所
- ・劇場、公会堂、集会場の舞台、客席

（上記以外は使用地域の消防署にお問合せください）

6. ビニールダクト直接接続禁止

ビニールダクトを使用するときは、必ず防災ダクトを内側に取付けてください。異常燃焼や火災の原因になります。

7. オイルタンク位置注意

オイルタンクを取付けるときは、バーナから、水平距離で2m以上離すか、防災上有効な遮へいを設けてください。火災の原因になります。

8. オイルタンク油面高さ注意

オイルタンクを取付けるときは、タンクの油面を油ストレーナから2m以上高くしないでください。火災の原因になります。

9. オイルタンクホース締め付け注意

オイルタンクを取付けるときは、ホースを確実に締め付けてください。締め付けが不完全ですと、灯油が漏れて火災の原因になります。

10. 組み立て時、給油ホース接続注意

給油ホースを油ストレーナニップルに接続するときには、確実に締め付けてください。締め付けが不完全ですと、燃料が正常に給油されず、不着火や異常燃焼になります。

11. 給油ホースに空気が入った際の着火時の注意

給油ホースに灯油が満たされず空気が含まれている場合、必ず、手動エア抜き弁を使用して点火操作を行ってください。エア抜きをせずに運転すると、灯油が吐出口前方に飛び散り、火災・火傷の原因になります。

12. 運転中の手動エア抜き弁の注意

燃焼運転中は、手動エア抜き弁はしっかり閉めてください。手動エア抜き弁が開いた状態で運転しますと、灯油がカップ側に流れて失火・火災・火傷の原因になります。

13. 手動エア抜き弁使用時の注意

手動エア抜き弁を使用して、カップにたまった灯油は、タンクに戻してカップ内を空にしてください。カップ内の灯油がたまりすぎると、灯油がこぼれて、火災の原因になります。

14. 点火操作後、吐出口接近禁止

点火操作した後、吐出口内をのぞき込んだりしないでください。やけどします。

15. 点火操作の繰り返し禁止

点火操作を3回繰り返しても着火しない場合は、それ以上操作を繰り返さないでください。火災の原因になります。使用を中止し販売店に連絡してください。

16. 異常時使用禁止

におい、煙の発生など異常燃焼を起こしたときは、直ちに使用を中止し、販売店に連絡してください。そのまま使用すると、生成物の被害・火災の原因になります。

17. 燃焼中移動禁止

ヒータを火のついたままで移動しないでください。やけどのおそれがあります。また、転倒すると火災の原因になります。

18. 電圧注意

電源は単相交流100V（90～110V）で使用してください。火災・感電・故障の原因になります。

19. アースコード未接続での使用禁止

アースコードを接続してください。接続しないで使用すると感電のおそれがあります。P. 9（3-4電源の接続）を参照してください。

20. 電源プラグ引き抜き注意

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って行ってください。電源プラグが損傷し、感電やショートを起こして発火することがあります。

21. 電源コード破損注意

電源コードは、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、挟みこんだり、加工しないでください。また、重いものを載せるなどの破損の原因となることは避けてください。火災・感電の原因になります。

22. 消火の確認

消火操作をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。

23. 給油時消火

給油は必ず消火してから行ってください。火災の原因になります。

24. 軍手着用

吐出口内を掃除するときには、軍手をはめて行ってください。手を切るおそれがあります。

25. エレメント汚れ注意

エレメントが汚れたまま運転し続けしないでください。着火不良や異常燃焼の原因になります。

26. 無人運転時の注意

サーモスタット・タイマーを取付けた場合、無人状態でも自動的に着火します。吐出口前方の可燃物や遮へい物など周囲に燃えやすい物がないか確認してください。火災の原因になります。

27. サーモスタット感温部設置場所注意

サーモスタットを取付けた場合、サーモスタットの温度感知部は温風が直接当たるところに置かないでください。頻繁にON（燃焼）/OFF（消火）を繰り返し、故障の原因になります。

28. 段積み保管は3段以下

段積み保管するときには、3段積み以下にし、柱などにしっかり固定してください。4段積み以上にすると安定が悪くなり、転倒のおそれがあり危険です。

29. 譲渡時の「取説」添付の励行

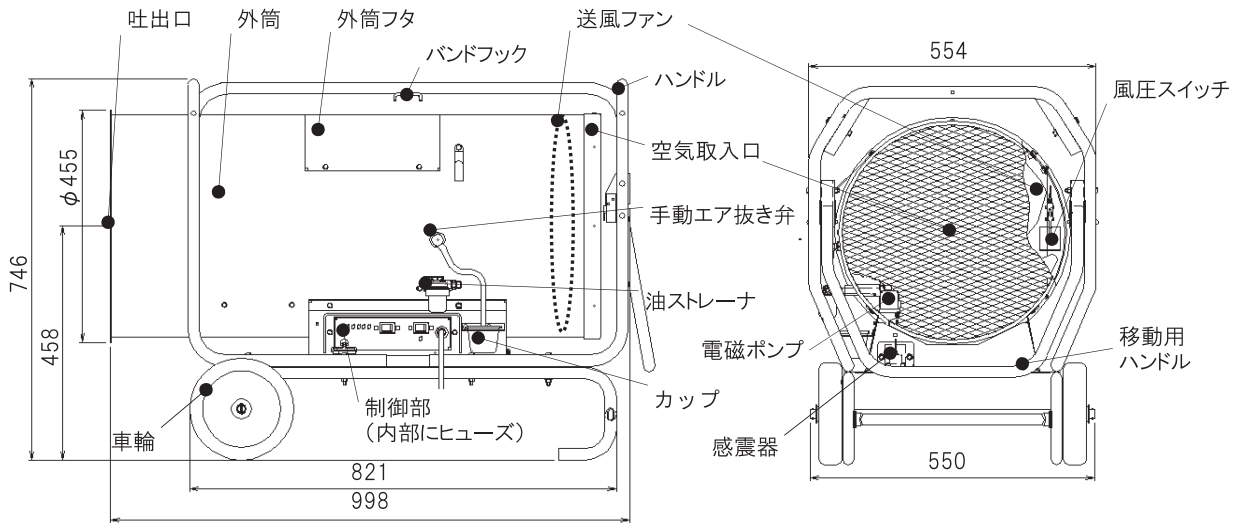
ヒータを譲渡するときは、「取扱説明書」を必ず添付してください。

30. 廃棄時の不法投棄禁止

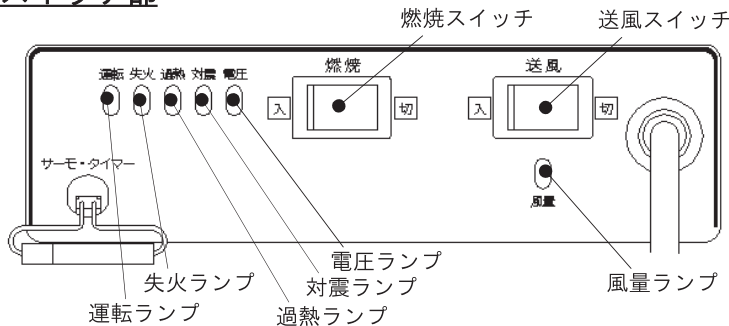
ヒータを廃棄するときは、必ず専門業者に依頼してください。絶対に不法投棄はしないでください。

2. 各部の名前

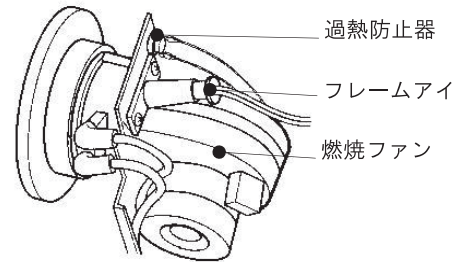
本体



スイッチ部



バーナ部



★安全装置の説明

炎監視 (フレームアイ)	点火ミスや燃焼中に失火したときに、自動的に消火します。 点火前にフレームアイの異常を検出したときに、運転を停止します。 作動状態： 失火ランプが点滅し、90秒間のファンによる冷却（以下、ポストページ）を行います。
過熱防止 (過熱防止器)	ヒータが異常に過熱したときに、自動的に消火します。 作動状態： 過熱ランプが点滅し、燃焼作動中のときは、90秒間のポストページを行います。
対震自動消火 (感震器)	燃焼中に振動や衝撃を受けたときに、自動的に消火します。 作動状態： 対震ランプが点滅し、燃焼作動中のときは、90秒間のポストページを行います。
異常高電圧検知	異常高電源に電源プラグを差し込んだときに、運転を禁止します。 作動状態： 失火・過熱・対震・電圧ランプが点灯し、運転作動できません。
電圧低下検知	運転中に電源電圧が異常に低下したとき、警報を発します。 作動状態： 電圧ランプが点灯しますが、運転は継続します。
ファン回転 異常検知	運転中に燃焼ファンの動作に異常が生じたときに、自動的に消火します。 作動状態： 電圧ランプが点滅し、燃焼作動中のときは、90秒間のポストページを行います。
送風異常検知 (送風スイッチ)	送風量が低下した場合、自動的に消火します。 作動状態： 風量ランプが点灯、失火ランプが点滅し、90秒間のポストページを行います。
モータ過熱保護	送風ファンモータが異常に過熱したときに、自動的に電気回路を遮断し、送風ファンを停止します。送風異常検知が働き、自動的に消火します。 作動状態： 風量ランプが点灯、失火ランプが点滅し、90秒間のポストページを行います。
過負荷保護 (ヒューズ)	機器の故障などの異常によって過電流が流れたときに、電源を遮断します。 作動状態： 全停止します。
停電時安全	運転中の停電発生から電源が復帰したときに、自動的に運転を開始することを禁止します。 作動状態： 運転・失火・過熱・対震・電圧ランプが点滅し、点火・燃焼ができません。

3. 使用方法

3-1. 燃料配管

- △注意**
- ・ オイルタンクを取付けるときは、バーナから、水平距離で2 m以上離すか、防災上有効な遮へいを設けてください。
 - ・ オイルタンクを取付けるときは、タンクの油面を油ストレーナから2 m以上高くしないでください。火災の原因になります。
 - ・ オイルタンクを取付けるときは、ホースを確実に締め付けてください。締め付けが不完全ですと、灯油が漏れて火災の原因になります。
 - ・ 給油ホースを油ストレーナニップルに接続するときには、確実に締め付けてください。締め付けが不完全ですと、燃料が正常に給油されず、不着火や異常燃焼になります。

お願い

- ・ 給油ホースは、当社の純正部品を使用してください。タンク接続側は、R1/4 (PT1/4) 管用テーパネジになっています。これに合った接続口が付いたタンクを使用してください。
- ・ 当社純正部品以外の給油ホースをご使用になる場合は、配管内径は、3 mm以上でかつ、長さは10 m以下にしてください。また、ホースは耐油性、耐候性のあるものを使用してください。
- ・ 配管は途中、ねじれ・折り曲げ・トラップがないようにしてください。着火できなくなるおそれがあります。
- ・ オイルタンクの油面の高さは、油ストレーナより2 m以上高くしたり、1 m以上低くしないでください。

★ヒータとオイルタンクの配管

1. 給油ホースを油ストレーナニップルにそれぞれスパナ掛けて確実に接続してください（図3-1-1-A参照）。
2. オイルタンクをタンクの油面の高さが、図3-1-Bのように油ストレーナより2 m以上高い位置、1 m以上低い位置にならないように注意して設置してください。

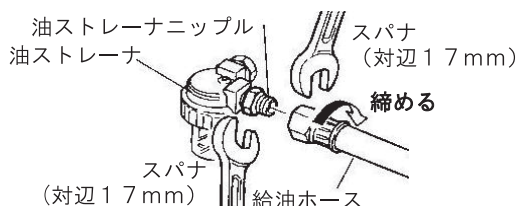


図3-1-1-A 給油ホース取付け方法

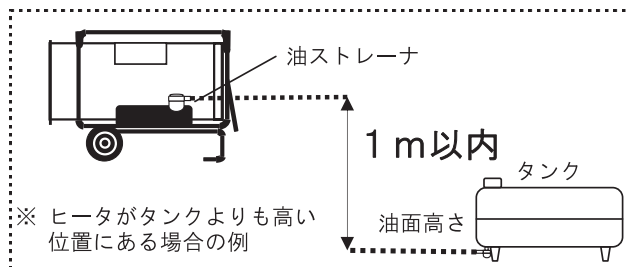
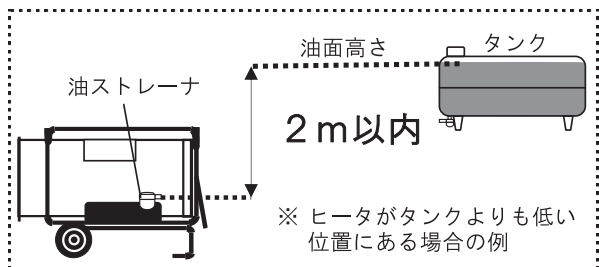


図3-1-B ヒータとオイルタンクの好ましくない設置位置の例

3. 給油ホースを途中、ねじれ・折り曲げ・トラップ（図3-1-C参照）がないようにオイルタンクまで伸ばして、オイルタンク側の接続口に確実に接続してください。



図3-1-C 好ましくない給油ホースの状態の例

★給油ホースの延長

お願い

- ・ 給油ホースを延長してご使用になる場合は、長さは10 m以下にしてください。

※ 給油ホースの長さが5 mで足りない場合には、当社の純正部品の給油ホースを市販のG1/4A (PF1/4) 管用平行ねじで接続して延長することが可能ですので部品の追加購入をしてください。ただし、1回の延長で給油ホース長さは10 mになりますので、2回以上の延長はお止めください。

1. 給油ホースから六角ニップルを外し、G1/4A管用平行ねじをスパナ掛けて確実に接続してください。
2. 接続したG1/4A管用平行ねじを追加の給油ホースにそれぞれスパナ掛けて確実に接続してください。

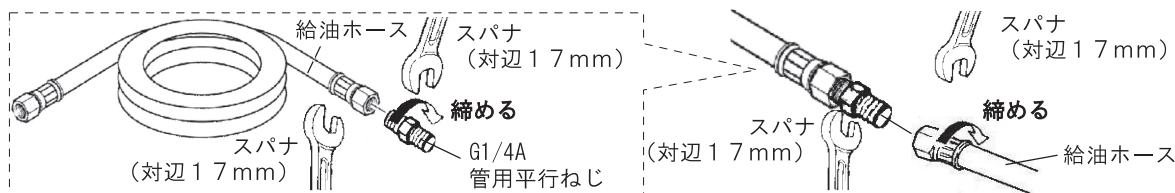


図3-1-D 給油ホースの延長方法

3-2. ダクトの取付け

△注意 ・ビニールダクトを使用するときは、必ず防災ダクトを内側に取付けてください。異常燃焼や火災の原因になります。

お願い

- ・ビニールダクトを使用するときは、本体から最低5mはダクトを真っ直ぐに設置してください。
- ・ビニールダクトの途中で急激に曲げたり、ねじったり、閉じたりしないでください。風量が減って失火します。
- ・ビニールダクト（特に先端）は熱風（送風）により動くため、固定してください。

★取付け方法

1. 防災ダクトを本体に差し込んでください。
2. ビニールダクトを防災ダクトの外側に差し込んでください。
3. ダクトバンドをバックルに挿入し、締め付けてください。
4. ビニールダクトが移動しないよう、固定してください。特にビニールダクトの先端はヒータの熱風（送風）の圧力がかかり移動しやすいため、固定してください。

※ 取外すときは、取付けの逆の手順で行ってください。

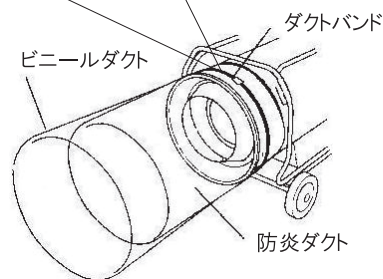
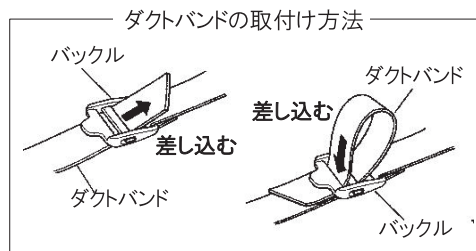


図3-2-A ダクトの取付け方法

★ビニールダクトの使用上の注意

1. 本体から5m以上は真っ直ぐに設置してください
 ビニールダクトを本体から5m以内で曲げますと、特に防災ダクト付近と折り曲げた部分がビニールダクトの耐熱温度（約90℃）以上の温度になり、溶けるおそれがあります。また、風圧がかかり破れやすくなりますので、ビニールダクトを曲げる場合には本体から5m以上離れたところで行ってください。
2. 曲げて使用する際の使用環境温度の注意
 使用環境の温度が高い場合には（50Hzでは25℃以上、60Hzでは35℃以上）、ビニールダクトを曲げて使用しないでください。防災ダクト付近の温度が90℃以上になり、ビニールダクトが溶けるおそれがあります。
3. 急激な曲げ、ねじれ、閉じがないようにしてください
 ビニールダクトは90°以上に曲げたり、ねじれや閉じがないように設置してください。防災ダクト付近の熱風温度が90℃以上になり、ビニールダクトが溶けるおそれがあります。また、風量が減少して風圧スイッチが作動するおそれがあります。ビニールダクトを曲げる場合には図3-2-Bのようにジャバラなどで固定してください。
4. 先端の固定・出口空間の確保をしてください
 ビニールダクトの先端は熱風でばたつかないように固定し、空気の出口を確保してください。

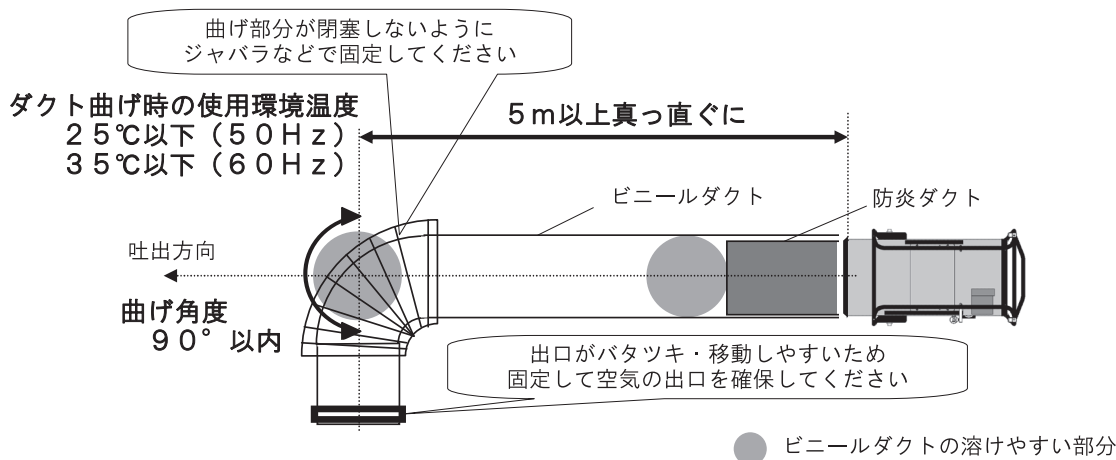


図3-2-B ビニールダクト使用時の設置例（上から見た図）

★屋外、屋根のない空間での使用方法

⚠危険 ・ビニールシートなど（以下、養生シート）を利用した場合においても、ヒータの空気取入口は遮断された空間外に出し、さらに排気口を設けて新鮮な空気を外部から取入れてください。酸素が不足すると、不完全燃焼し、一酸化炭素などが発生し、中毒になる可能性があります。

⚠警告 ・ヒータを雨水、雪などのかかる場所に設置しないでください。感電するおそれがあります。

⚠注意 ・養生シートを利用する場合には、そのシートが風などではずれないように確実に固定してください。シートがはがれてヒータにかぶさると火災の原因になります。

お願い

- ・ビニールダクトの出口をしぼる場合、必ず弊社の長さ30m以上の穴あきビニールダクトを使用してください。ビニールダクトが溶けたり、風量が減り風圧スイッチが作動して消火するおそれがあります。
- ・ヒータは急な雨水、雪などがかからないように屋根のある場所に設置するか、簡易的な屋根を設けてください。

1. 温風が上昇気流によって逃げないように、図3-2-Cのように養生シートで空間を遮断してください。
2. 新鮮な空気を外部から取入れることができるようにヒータの空気取入口を遮断した空間の外に出して設置してください。
3. ビニールダクトは穴が被加熱物に向くようにヒータに取付けて、出口をしぼってください。

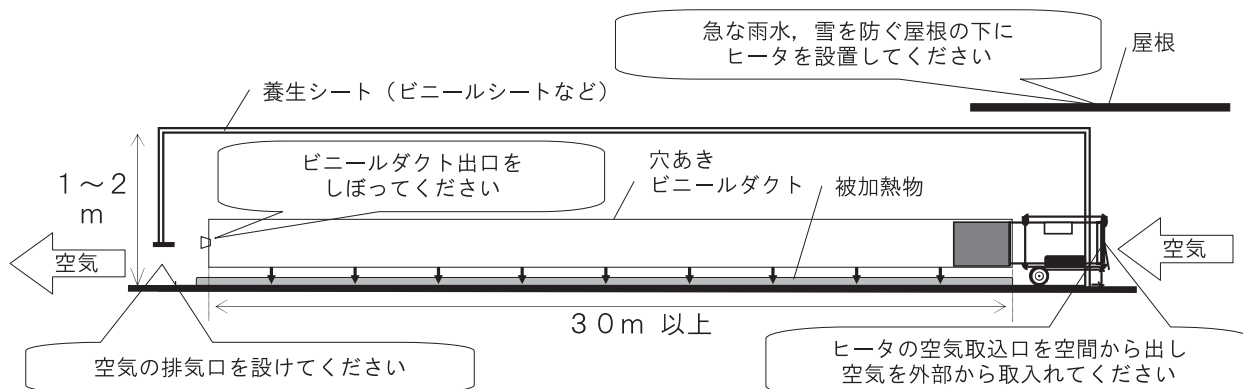


図3-2-C 養生シート利用例

3-3. 手動エア抜き弁の使用方法

⚠注意 ・給油ホースに灯油が満たされず空気が含まれている場合、必ず、手動エア抜き弁を使用して点火操作を行ってください。エア抜きをせずに運転すると、灯油が吐出口前方に飛び散り、火災・火傷の原因になります。

- ・燃焼運転中は、手動エア抜き弁はしっかり閉めてください。手動エア抜き弁が開いた状態で運転しますと、灯油がカップ側に流れて失火・火災・火傷の原因になります。
- ・手動エア抜き弁を使用して、カップにたまった灯油は、タンクに戻してカップ内を空にしてください。カップ内の灯油がたまりすぎると、灯油がこぼれて、火災の原因になります。

1. カップに灯油が入っていないことを確認してください。
入っている場合には、カップをホルダーから抜き取ってたまった灯油を捨ててください。
2. 手動エア抜き弁を左に回して全開にしてください。
3. 点火操作（P. 9参照）を数回行ってください。
タンクからポンプの間の空気がカップに出て、空気が抜け終わるとカップに灯油が出てきます。
4. カップに灯油が出てきたら、手動エア抜き弁を右に回して全閉にしてください。ポンプからバーナ側に灯油が供給されて、数秒後に着火します。

※ 着火しなかった場合には手動エア抜き弁を閉めたままで再度点火操作を行ってください。

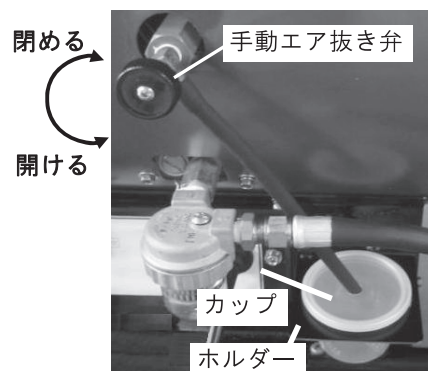


図3-3 手動エア抜き弁使用方法

3-4. 電源の接続

- △注意**
- 電源は、単相交流100V（90～110V）で使用してください。間違った電源を使用しますと火災、感電、故障の原因になります。
 - アースコードを接続してください。接続しないで使用すると感電のおそれがあります。
 - 電源コードは、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、挟み込んだり、加工しないでください。また、重いものを載せるなど破損の原因となることは避けてください。火災・感電の原因になります。
 - 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って行ってください。感電やショートして発火することがあります。

お願い

- 発電機を使用する場合、使用するヒータと併用している機械を合わせた消費電力が、発電機の定格出力を超えないようにしてください。また、電圧は単相電圧100V（90～110V）が確保され、電圧降下がないようにしてください。火災・故障の原因になります。

1. 燃焼スイッチが「切」になっていることを確認し、電源プラグをコンセントに接続してください。
 2. アースコードを接続してください。
- ※ 電源コードを延長してご使用になる場合は、コード長さによりコードの太さを下表以上の太さに選定してください。

延長コードの長さ	30m	60m	90m	120m
コードの公称断面積	2mm ²	3.5mm ²	5.5mm ²	8mm ²

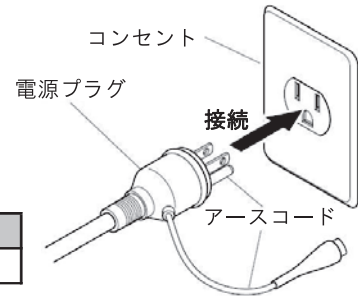


図3-4 電源の接続方法

4. 運転操作方法

- △注意**
- 点火操作をした後、吐出口内をのぞき込んだりしないでください。やけどします。
 - 油漏れが見つかった場合、販売店に連絡し修理してください。引火のおそれがあります。
 - におい、煙の発生など異常な燃焼を起こしたときは、直ちに使用を中止し、販売店に連絡してください。そのまま使用すると火災の原因になります。
 - 給油ホースに灯油が満たされず空気が含まれている場合、必ず、手動エア抜き弁を使用して着火操作を行ってください。エア抜きをせずに運転すると、灯油が吐出口前方に飛び散り、火災・火傷の原因になります。

4-1. 点火操作

お願い

- 着火の確認をするまで、離れないでください。火がついていないおそれがあります。
- 運転は、必ず10分以上実施してください。短い運転時間の繰り返しは、ススが発生しやすくなり、故障の原因になります。

1. 燃焼スイッチを「入」にしてください（図4-1参照）。運転ランプが点灯し、約5秒後に着火します。
2. 着火を確認してください。

着火しなかった場合または、運転中に地震や振動により対震自動消火装置が作動した後に点火する場合

一度、燃焼スイッチを「切」にし、送風ファンによる冷却運転が終了して運転ランプが消灯した後、再度点火操作を行ってください。

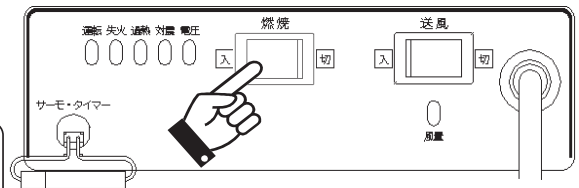


図4-1 点火操作

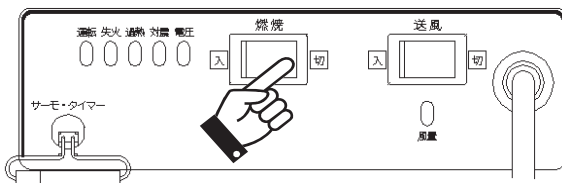


図4-2 消火操作

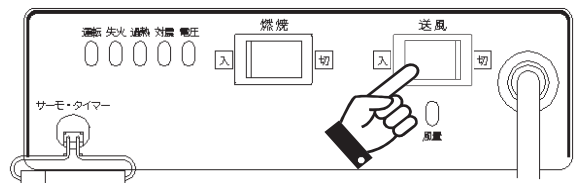


図4-3 送風操作

4-2. 消火操作

- △注意** ・ 消火操作をしたときは、火が完全に消えていることを確認してから離れてください。
 ・ 電源プラグをコンセントから抜いて消火しないでください。火災の原因になります。

お願い

- ・ 電源プラグをコンセントから抜くときは、送風ファンが停止したことを確認してください。

1. 燃烧スイッチを「切」にしてください（P. 9 図4-2参照）。燃烧が停止し、約90秒後に送風ファンが自動的に停止し、運転ランプが消灯します。

4-3. 送風操作

1. 送風スイッチを「入」にしてください（P. 9 図4-3参照）。送風だけの運転ができます。
- ※ 燃烧運転する場合は、送風スイッチを「切」にしておいてください。「入」の場合は、燃烧を「切」にしても送風運転が止まりません。

5. 点検・手入れ・保管

- △警告** ・ 日常の点検、手入れの際は必ず消火し、電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電のおそれがあります。
 ・ ヒータが冷えた状態で行ってください。特に、消火後約30分間は、高温部・吐出口周辺に手など触れないようにしてください。やけどします。

5-1. 日常の点検と手入れ

- △注意** ・ エレメントが汚れたまま運転し続けしないでください。着火不良や異常燃烧の原因になります。

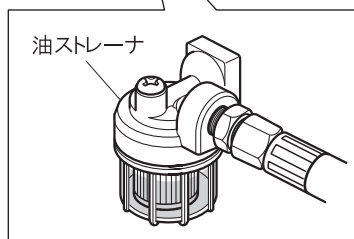
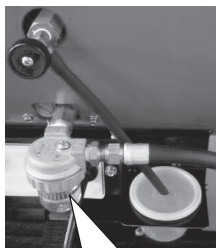
お願い

- ・ 外した油ストレーナのカップは、元通りに確実に締め付けてください。確実にない場合は空気を吸い込み着火できません。

★油ストレーナ、エレメントの点検

油ストレーナの水抜き

1. カップを緩め、外してください。
2. カップを傾けて水を捨ててください。
3. カップが汚れていたら、ウェスなどで拭いてください。
4. カップを確実に締め付けてください。



エレメントの交換

1. エレメントが汚れている場合には、新品と交換してください。（カップを確実に締め付けてください。）

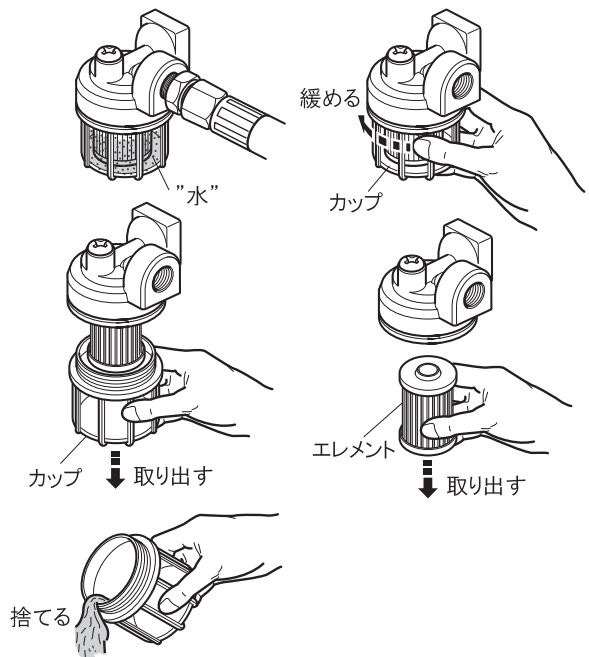


図5-1-A エレメントの点検方法

★フレームアイの点検・掃除

お願い

・フレームアイを引き出すときは、フレームアイ本体を持って行ってください。

1. 外筒フタを外し、フレームアイを引き出して受光面の汚れを点検してください。
2. 受光面が汚れている場合は、綿棒もしくは柔らかい布で、透明になるまで拭いてください。
3. フレームアイをはめ込み、外筒フタをネジで確実に取付けてください。

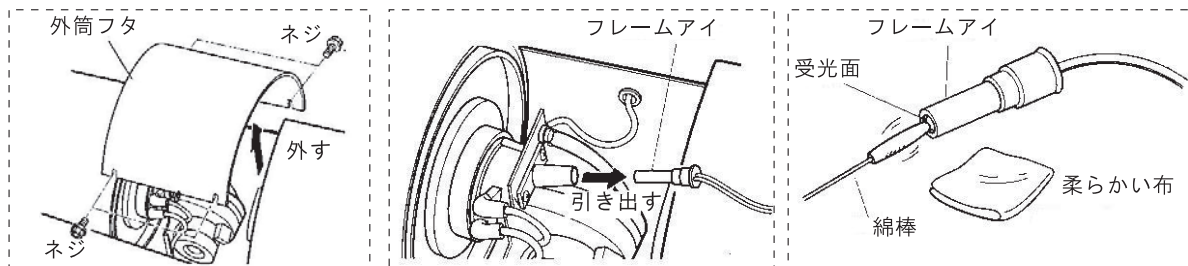


図5-1-B フレームアイの点検方法

★対震自動消火装置の作動点検（この点検のみ燃焼運転中に行ってください）

警告 ・対震自動消火装置の作動点検は、吐出口部分を持って行わないでください。やけどします。

1. 燃焼運転しているヒータの空気取入口側のハンドルを持ち、ヒータを上下・左右に激しく揺すってください。
2. ヒータを元の位置に戻してください。
3. 対震ランプが点滅し、消火するか確認してください。
消火しない場合はお買い求めの販売店、またはサービス店に連絡してください。

★本体の点検

警告 ・空気取入口の保護網が変形、破損した場合は使用を中止し販売店に連絡してください。送風ファンに身体や物が吸い込まれたり、吸い込まれたものが飛び出し、ケガの原因になります。

注意 ・吐出口内を掃除するときには、軍手をはめて行ってください。手を切るおそれがあります。

1. 各部のボルト、ネジに緩みがないか確認してください。緩みがある場合は確実に締め付けてください。
2. 各部に変形、破損がないか確認してください。
変形、破損がある場合はお買い求めの販売店、またはサービス店に連絡してください。
3. ヒータ本体周りにごみやほこりがたまっていないか、点検してください。
ほこりがたまっている場合は掃除機で吸い取るか、ウェスなどで拭き取ってください。

★定期点検

1. シーズン終了後などにお買い求めの販売店、またはサービス店に点検依頼してください。

5-2. 保管（長期間使用しない場合）

注意 ・電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って行ってください。感電やショートして発火することがあります。

お願い

・本体に直接水がかからないようにしてください。故障の原因になります。

1. 電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
2. 油ストレーナの油抜きをしてください。方法は、P. 10の「油ストレーナの油抜き」の手順に従ってください。
3. 本体外側などの汚れは、中性洗剤で拭き取ってください。
4. 屋内で、湿気の少ない場所に保管してください。

6. 故障・異常時の処置方法

◎ 次のような現象は異常ではありません。

修理サービスをお申し付けになる前に、もう一度ご確認ください。

症状	原因
初めての使用のとき、煙やにおいが出る。	ほこりや油分などが焼けるためです。しばらくするとなくなります。
初めての使用のとき、電磁ポンプの振動や異音がある。	電磁ポンプ内に空気が混入しているためです。空気はしばらくすると抜け、音も静かになります。
点火時および消火時にピチピチ音がある。	バーナ部の膨張収縮音です。異常ではありません。

◎ 修理を依頼される前に、下記の点検をお願いします。

下記以外の症状の場合、または処置方法に従って処置しても直らない場合は、お買い求めの販売店、または最寄りの弊社営業所(巻末参照)へお知らせください。その際に、症状の他、ヒータの形式名、製造番号をお知らせください。製造番号は、制御部の上に貼付してある「仕様・配線図ラベル」(P. 13参照)に記してあります。

症状	原因	処置方法
全く動かない (表示も出ない)	電源が入っていない 停電している	電源を入れてください
全く動かない (表示は出る)	安全装置が作動している	安全装置を確認してください(P. 5参照)
	サーモ・タイマー動作中である	サーモ・タイマーを確認してください
着火しない	オイルタンクに灯油がない	給油してください
	オイルタンクに水が入っている	オイルタンクを掃除して、きれいな灯油を入れてください
	エレメントが詰まっている	エレメントの点検と交換をしてください(P. 10参照)
途中失火する	安全装置が作動している	安全装置を確認してください(P. 5参照)
	灯油が不良である	オイルタンクを掃除して、きれいな灯油を入れてください
	フレームアイが汚れている	フレームアイを掃除してください(P. 11参照)
	エレメントが詰まっている	エレメントの点検と交換をしてください(P. 10参照)

7. 仕様

形式	HGDHⅡ
種類	熱風式・直火形
点火方式	高圧放電点火
使用燃料	灯油(JIS1号灯油)
燃料消費量	3.6 L/h
熱出力	35 kW
油タンク容量	別売
燃焼持続時間	—
外形寸法	高さ746mm×幅554mm×奥行998mm
質量	50 kg
電源電圧	AC100V [50/60Hz]
消費電力	点火時: 251/330W [50/60Hz]
	燃焼時: 232/313W [50/60Hz]
ヒューズ	ガラス管ヒューズ 10A 250V (φ6.35×λ30)
運転音	67/71 dB (A) [50/60Hz]
安全装置	対震自動消火・炎監視・過負荷保護・過熱防止・ファン回転異常検知・異常高電圧検知・電圧低下検知・送風異常検知・モータ過熱保護・停電時安全
付属品	防災ダクト・ダクトバンド・給油ホース

8. 安全ラベルの一覧

安全ラベルは、ヒータを安全にお使いになるために重要なものです。
はがしたり、汚したりしないでください。

ラベルの文字が消えたり、読みにくくなった場合は、販売店に注文して貼りかえてください。

取扱注意ラベル

ご使用前に必ず取扱説明書をお読みください。
ビニールダクトを使用する時は、必ず防炎ダクトを内側に取付けて、ダクトの折れに注意し、新鮮な空気を補給してください。

警告

1. スプレー缶などの密閉容器を加熱したり、熱風の当たるところに放置しないでください。
2. 可燃性粉じん（木くず、紙くず、繊維くずなど）が発生する場所では使用しないでください。
3. 空気取入口、吐出口をふさがないでください。
4. 燃焼中や消火直後は吐出口周辺は高温になっています。手などを触れないでください。

注意

1. 吐出口前方の可燃物から2.5m以上、左右側方、後方及び上方の可燃物から2m以上離してください。
2. 雨水、雪などのかかる場所では使用しないでください。
3. 点火操作をした後、吐出口内をのぞき込んだりしないでください。
4. 手動エア抜き弁を使用して、カップに溜まった灯油は、タンクに戻してカップ内を空にしてください。

運転の手順

- ・ 燃焼スイッチを「入」にすると送風ファンが回転し、数秒後に燃焼を開始します。
- ・ 一度の点火操作で着火しない場合は燃焼スイッチを一度「切」にして、再度「入」にしてください。
- ・ 燃焼スイッチを「切」にすると燃焼は停止します。
- ・ 90秒間、送風ファンが回転し運転ランプも点滅し続けます。その後自動的に停止します。
- ・ 送風スイッチの「入」「切」で送風ファンが運転できます。

ランプの種類	表示内容
運転ランプ	点灯：正常運転 点滅：冷却運転中
失火ランプ	点滅：燃料切れなどにより失火しました
過熱ランプ	点滅：本体が異常に高温になりました
対震ランプ	点滅：大きな振動を受けました
電圧ランプ	点灯：電源電圧が低下しています 点滅：燃焼ファンの回転が異常です
風量ランプ	点灯：ダクト折れなどにより風量が低下しました

- ・ 異常高電圧検知・・・異常高電圧で検知します。失火・過熱・対震・電圧ランプが点灯します。
- ・ 停電時安全・・・停電後に再通電したため運転を停止しました。全ランプが点滅します。
- ・ 電源を接続した時に全ランプが1秒間点灯します。

>PET< 50328-201008

危険表示ラベル

警告

1. この機械は物の加温、乾燥を目的とした業務用ヒータです。
2. 家庭用として使わないでください。

火力が強いため、火災、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

警告



日常点検・手入れ時は電源プラグをコンセントから抜いてください。

危険



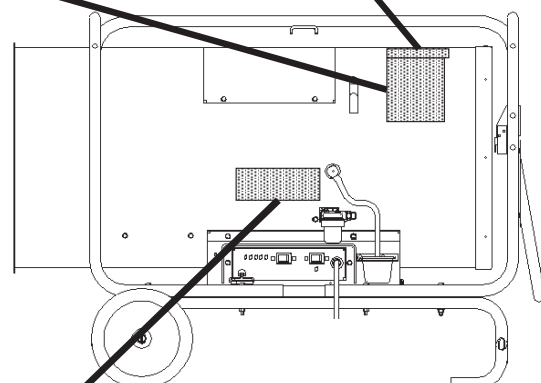
使用中は必ず換気して新鮮な空気を補給してください。

危険



可燃性ガス及び引火性液体の使用及び保管場所での使用禁止。

50229-201058



仕様・配線図ラベル

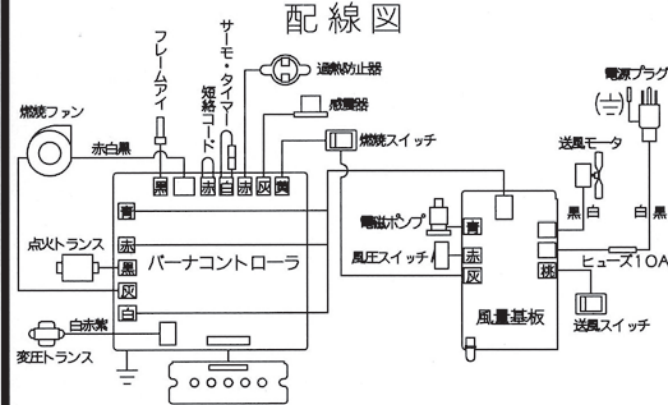
仕様

形 式	HGDHII
種 類	熱風式・直火形
熱 出 力	35kW
燃 料 消 費 量	3.6L/h
使 用 燃 料	灯油（JIS1号灯油）

定 格 電 圧	100V
定 格 消 費 電 力	点火時 251/330W 燃焼時 232/313W
定 格 周 波 数	50/60HZ
製 造 番 号	○ - ○○○○○○

静岡製機株式会社

配線図



>PET< 50328-201009

アルファベット

数字6桁

9. 別売部品について

⚠警告 ・別売部品を取付けるときは、電源プラグを外して行ってください。工具などの金属部分が電装部品に触れると、感電・破損のおそれがあります。

名前	使い方				
サーモスタット	部屋などの空間を暖めて、設定温度に保ちたいときに使用します。 設定温度範囲によって、A・B・Cの3種類があります。				
	A	-10~60℃	B	0~100℃	C
タイマー	時間によって運転を行ったり、止めたりするときに使用します。24時間タイマーで15分刻みの設定ができます。				
オイルタンク9.5L	別置きでタンクを取付けて使用します。				
ビニールダクト	穴の有無、長さにより4種類があります。用途に合わせてお使いください。				
	穴あき	50m	折り幅 0.7m	穴ピッチ 1m	
		100m			
	穴なし	50m	穴なし		
100m					

サーモスタット・タイマーの取付け方法・・・・・・・・・・・・・・・・

⚠注意 ・サーモスタットを取付けた場合、サーモスタットの温度感知部は温風が直接当たるところに置かないでください。頻繁にON（燃焼）/OFF（消火）を繰り返し、故障の原因になります。

・サーモスタット・タイマーを取付けた場合、無人状態でも自動的に着火します。吐出口前方の可燃物や遮へい物など周囲に燃えやすい物がないか確認してください。火災の原因になります。

1. 電源プラグを抜いてください。
2. 操作部のサーモ・タイマーと書かれた下から出ているの白いコードの端子を外してください。
3. 外したコードのオス・メス各コネクタにサーモスタットあるいはタイマーのコードのコネクタを接続してください。
4. サーモスタットとタイマーを同時にお使いになる場合は、直列になるように接続してください。



図9 サーモスタット・タイマーの取付け方法

10. アフターサービス

- 修理サービスを依頼される前にP. 12の「故障・異常時の処置方法」を御覧になり、もう一度ご確認ください。

それでも異常のある場合は、お買い求めの販売店、または、最寄りの弊社営業所（巻末参照）にご相談ください。

なお、ご相談の際には、製品の異常の状態と製品の形式名、お使いの製品の製造番号をお知らせください。製造番号は、制御部の上に貼付してある「仕様・配線図ラベル」（P. 13参照）に記してあります。

- この製品には、1年間の無償修理保証書が付いていますので、大切に保管してください。なお、保証期間内に修理を依頼される場合は、保証書を添えてください。

- 下記の場合は、保証の対象となりませんので、ご注意ください。

- 1) ノズル・エレメントなど消耗品
- 2) 誤使用による故障

例）電源200V使用による電気部品の故障

- 3) 火災・浸水・落雷などの災害によるもの
- 4) 腐食性ガスの発生する場所で使用した場合の部品の腐食

例）畜舎などアンモニアガス等の発生する場所

- 5) その他、取扱説明書に記載してある以外の使い方による故障

- 無償修理期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって性能が維持出来る場合は有償修理致します。販売店からの注文により、補修用性能部品を販売店に供給します。この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。
 - 1) この期間は、経済産業省の指導によるものです。
 - 2) 性能部品とは、その製品を維持するために必要な部品です。

製品保証書

形式	HG DHII	製造番号	-
ご住所	□□□-□□□□ フリガナ 電話 (-)		
ご芳名	様		
保証期間	平成 年 月 日から 1年間		
販売店名	電話 (-)		

下記の通り保証いたします。

- (1) 「正常な使用状態」において生じた、製造上の責任による故障又は損傷につきましては、納入後「1年間無償修理」いたします。
- (2) 次の場合は、保証期間中でも「有償修理」といたします。
 (イ) 誤ってご使用になった場合の故障又は損傷
 (ロ) 納入後、改造等によって生じた故障又は損傷
 (ハ) 火災、地震、台風等の天災による故障又は損傷
 (ニ) 保証書のご提示がない場合
 (ホ) その他上記に準ずるもの
- (3) 本機の保証は日本国内で使用される場合に限りです。
 This warranty is valid only in Japan.

静岡製機株式会社 

- 製品の修理・お取扱い・お手入れについてのご相談ならびにご依頼は、お買い上げの販売店もしくは最寄りの弊社営業所にお申し付けください。

- ご購入された製品や弊社のサービス全般についてのご提案・ご意見・ご要望は、下記までご連絡ください。

静岡製機株式会社

北海道営業所 〒007-0804 札幌市東区東苗穂4条3丁目4番12号
TEL (011) 782-5294 (代) FAX (011) 782-8258

東北営業所 〒989-6136 宮城県大崎市古川穂波3丁目1番14号
TEL (0229) 23-7219 (代) FAX (0229) 21-1464

関東営業所 〒302-0017 茨城県取手市桑原1424-1
TEL (0297) 73-0658 (代) FAX (0297) 71-3080

中部営業所 〒437-0023 静岡県袋井市高尾2620-1
TEL (0538) 42-3222 (代) FAX (0538) 42-3206

関西営業所 〒661-0032 兵庫県尼崎市武庫之荘東2丁目10番8号
TEL (06) 6432-7880 (代) FAX (06) 6432-7487

静岡製機株式会社 お客様 提案窓口

・フリーダイヤル : 0120-702-118
(携帯電話・PHSは不可)

・一般電話 : 0538-23-3305

・FAX : 0538-23-4997

URL : <http://www.shizuoka-seiki.co.jp/>



用紙は再生紙、インキはベジタブルインキを使用しています。弊社では、地球にやさしい印刷物を常に考えています。

50328-201010 D
12005 ©